俳諧天爾波抄

三

へ 5
4422
3

へ 5
4422
3

昭和九年
九月二九日
購求

俳諧天爾波抄巻之三

○十九家
○曽家

ぞ

凡ぞ[illegible]

[illegible]

味とゝのくやもろもろ。これくよりもろく。ぞく法師の門とゝ世よいらぐ
うまもちもちぐうまぐべのんいはんとゝ。ぞくとゝあきこゝや。
法師とゝ世さきりく法師の主ゝあるこのもりぐ法師とぐうゝ
ゝりくくえ。ぐの字ゝくゝうゝれゝ。今ゝ世のお茶五十
言ゝうゝ出ゝうゝるわぐんあゝんゝ。ゝくんゝ角ゝくゝうゝれゝ主ゝぐ。
ぐゝ三例あり「つむぐ」「うぐ」「ぐ」「中のぐ」但コノ中ノぐトイフ二ハ
ナリ・ナホ下ニイフベシ　ゝれゝ　畧スルト畧セヌト二例

○甘一　はむぐ

春　柳よりぐ法ぐゝゝら　鶯なくや　重五

この匂柳よりき法ゝく蹴鞠ゝゝろ　とゝ世ゝうのゝぐ「ん」とゝ

やくゝこの主ゝゝとゝゝゝゝゝゝ

炭　年ゝゝぐ　ゝくゝぐ主ゝ　智月

集　蛤の二見ゝうゝれゆく秋ぐ　芭蕉

日　かくゝゝぐ宿ゝ菜汁ゝ食ぐゝ　〃

日　ゝゝ浮ゝくゝゝゝゝゝ梅本ゝ　〃

荒　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　〃

日　人の鶏　鶏ゝ鶏ゝゝゝゝゝゝ

春　ゝゝゝゝゝゝゝ佛ゝゝゝ　荷ゝ

ゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　越人

冬　秋水一ゝ　ゝ　重五

炭　詩ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　芭蕉

日　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　〃

積　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　依ゝ

題竹戸之食　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　書良

[illegible]

○廿二　うとがみ

[illegible]

[illegible]

荒

[illegible]

集　秋山[illegible]　隣[illegible]

芭蕉

同

見蝉を聞く蕎麦の花ちらほら雑炊のみぞ　同

猿

[illegible]　其角

初もみぢ[illegible]が爺[illegible]　也紅

荒

[illegible]　太祇

猿

[illegible]　青柳

炭

[illegible]　祐甫

同

[illegible]　其角

猿

いかもよく蕨のなりよりもこぶし　里東

この白のこゝろ上の孫のもりあるやくんぐ

○寸三　中のぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

荒

[illegible]　越人ト吉田ノ駅ニテ二人ばかり　芭蕉

ける。これわくらとこれもとみぐれんと同じ。
二人ぐらとまるるものらわれらをもとるにく。
をもちびられるく。そのこの何物とうぐ。女と二人
あるを。吸ものぐめるものいをもを。越今二人のこがねの
まぐ。女とあるこぐりをあるぐを。二人ぐらでをうま
じくをもるんと同じをもをいをもをこれらの句。
ほを世の仏を。ものくらのあるぐはをみぐ。こをひみるを言
霊のをうりをんをこれぐる句ぐうひちぐ。ものをひをう
ぐるを。蕉をぐんぐ。ものをんぐをみをぐまをひあり
をを。これのをつをもをぐ。これの句をみく。ほ
をを。をぐるんをををく。むをををうんをあぐ。ワがを言
うんををく幸をうぐ。

瓢集

荒

日

日

日

荒

猿蓑

荒

日

日

日

日

くろのをちをを。ををあるる　里東
ちをくぐを。笑ぐりをひぬ茶をの花　吉次
下ををひぐるくをりて夜ぐをぐ　野水
をれををきを柿のぐをんぐををのをき　みを松
うの花も毋をぐ宿ぐををまぐ花　芭蕉
俳ぐを祇ぐをくけをのを　ちめ
をのをく竹のを笠ぐををりる　羽笠
ねをくをく竹をををを宿ぐあけやをく　みを松
若草ををりをぐををぐ行ぐを花　荷兮
ををく神ををぐ来ぐ来をくをき　日
をを菊のをををぬぐ井ぐをを花　男色
行ぐををぐををぐあををぐを井の秋　舟泉

同　野水
侍　空重
瓢　荷考
員　汪水
同　みな
春　なし人
集　芭蕉
同　日
同　日
続　芭蕉
瓢　鈴言
員

春　あくで　乱れ　の　ちりは　鹿　梅　にく　旦蕉
冬　今ぞ　うぐ　ひす　乃　夫　なれ　乳　山　声　荷考
春　敢　ひとり　われ　ぬ　ぞ　ま　の　雪　重五

○まて
集　ひとり　ぶし　かな　ぞ　ぶ　い　ぞ　ぐ　芭蕉
この句、平　ま　か　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
く、例　あ　ぞ　ま　ま　り

弦　あや　まり　く　ぞ　ぞ　ぞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○又何ぞ何きこはきゝ例のごとくにくさるゝあらの

冬　かづらいらこのまぐさと同みんて。その年のやちあまぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古よりもあるべきことなれども　[illegible]

てさくるまとりくさのもとにはせうつりさかりする天の川

うわさ例あり。下のうちあれの詞を異やめとかり

○廿一　あるるうれし　異セヌ例ヨセし

冬　岩ぎりのむかのが書うれし　異うし絶　重五

世白えるのまよりみんにく。かのあるぐがえ異ふさっ[illegible]

未だやとをみんとをさする為すり。これうのはうひうぶ

しょうよりけり

集　元　白うり　因毎の日うれし　芭蕉

日　白魚よ　價あるうそううそうなる　日

瓢　冷ものよ　味のつるうれし　海頓

拾　うづくるべ　餅うそくりのえ　黄蕉

荒　うりうそ　売うれうれしのまた　蕉梧

○廿二　めぐるよう　こしハ異スル例ヨセすり

荒　されどう我　あれうれうれ　乃　夏の扇　芭蕉

この夏うれうれうそ　のうそ　かのうそうれ　東るれ

うづくるべ異うれ　うれうれ　詞をこと

先くけてうのすぐ　うれうれうそうれうれ

うんかり。異する異やめうれ　かるるもの

拾　秋のくれ　異うれ　泣うめ　あるれどうそ　芭蕉

[illegible]

かくのごとくいとしたてまつるべき天如波なれば、ひとしおぼえてく言靈とてすべてじいまだ今一事の法[illegible]なれば

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物ばかりの書ときこえつるのみあるべし。[illegible]

[illegible]

べたし。古今集離別の部の詞書に「人をとどめて」とかくべき。[illegible]

うゐかるとよりとかく。古来国字書。[illegible]

国字書の廻詞なり。けさごひなる所典なる廻詞なり。「音通」「通用」や

すべて「助辞」「農語」などなれし。つゐにはひとつにすぎぬ。

ひとつのまぎれとなる。五十音[illegible]

口がきこえてしかるべし。[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かの詞書。うるすぎをとまくにしかるべきかをもとめ[illegible]

べ。もれるべき別ぞ。[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世の俗語なるべし。俗語ニカヽル誤多キモノナレバ。[illegible]

語ときとも歩[illegible]

[illegible]

猿　うゑ人を、松殼恒よりくぐらやん　芭蕉

けるとくらぶ人もなりどかもわがもつ人のもるれぐいうすくくとくん

[illegible]

猿　[illegible]

炭　なんの神を[illegible]　[illegible]

荒　あらつまとむつまじくなく鶺　紙人
同　わうまつないとする花のあるじか　路通
炭　この島の餓鬼とする月と花　芭蕉
同　年よりさめと常住ねむるく　杉平
続　ひがしや坊とふ親ふり　泊園
同　ふり捨と犬歯つくる性ふ　乍木
同　巣の中や身を細しく歌蒸　峯花
荒　五月雨や粒芽をもす市の家　杉芳
瓢　稲稲のかたとしてしたしく　路通
炭　きつち坊ふが上へあがりす　杉平
冬　ちゝ木懐の鐘花をふり　荷号
瓢　ふくまれくいつぬ踊の肝をふり　蹟

冬　立きめるく論府をふた　芭蕉
同　傳ものいくずず　歌をかの世　羽笠
続　徒を待場うかへ地にげ　曲翠
同　いろげきはをあけるすぐふ　游刀
炭　級のは一なる年とする月　宗七
集　うぐりすや竹のの藪と花をく　芭蕉
員　いく年一を形礼せぐりとき　杉芳
同　ちもの蓑と振て引ちや　約言
様　年の秋や経文をきけばふる秋　長和
炭　麦今し弓日んのあるが縄　野坡
員　ひる府は一を飯ぬぐりゆく　呼水
冬　江を西くに宿集庭と世を拾く　重五

春　傾城　紀をこうく次あけぐの　昌圭

○まつぷけのうちあつべき詞なれば畏き例のかんえうたづねまづ
なり。いづまでもその畏きる詞とうへ畏るとみくんぐし

猿　福の花これを佛のうやげ　智月
炭　枝ぶくなりぬなしを持ふ　湖春
芦　先いそへ持をんのみてごもり　芭蕉
月　里うすむゆつべかるものさうふ　吟水
月　沢庵の墓品川ニテ人ニ別ル限ル秋のくれ　枚鱗
月　そぶわく傘言ずき雨間ふる　乙洲
俤　かのげうそのそうそうぶふ　圃燕
猿　けうそやの暫のねぐらを思ふ秋のれ　山川
月　低者なわくきねぐ峯をゆくへふ　挑妖

月　染ぐくれぬ花を牡丹のすぐふ　全峯
員　月の月利ふ秋の夜　祥子
炭　持ぬなる本を子供のより所　利牛
流　かほろと白酒うりのるぐふ　文考
猿　うすうすし有佐ナル人ニウレテ来官スルニ有ノ餞ニ古池の蛙ぐるふ　其角
子　花ずく神田祭大名ぐとふつうふ　尚白
冬　寅のりのうとと能治のとく　芭蕉
月　柳柳山寺の体を。おもく　言水
猿　林のあやこの一節を。藤のう　其角
月　朝臺や明石夜泊さるぐ寒のと。この月　芭蕉
俤　ぐ細賣のせつぐうと。豚と。大事ぐる　月
岸　細賣のせつぐうと。青ぐく　船中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

スルなどゞ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○又この異例のやうにくゝつるものあり。上古の例バコノれ格ノ[illegible]リ。れも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾

みぐけや 朝しあるのこ 幸ふ 別　芭蕉

宇数こゝねぐかゝるまいつる 俳諧の徳なり。されど人こゝろ。とゝ
いつゝたゝのこる雪のこゝろ。あるこゝ。深沢たゝことかゝるるし

○とゝぐとゝもむかく。とゝいつゝの蕉風。人のおもひけぬこゝかなるゝ
をさゝゝすんし。渭言るゝ。とゝいつゝ俗とゝひゝつゝ。
ひがんゝ同じくなるむゝこゝし。行ゝのそれ家とあゝやくんゝ

波家

そ

そゝいつゝ。すゝく物を問ゝけゝゝる詞ゝ。されゝそゝわゝ
みゝぐさゝゝあれゝこゝで。書ゝ寿ゝ。そゝ寿ゝ。ゝなどゝ
問ゝけゝるそゝたゝれゝど。これゝゝ。ゝゝ寿ゝ。ゝゝ
ゝひゝけゝいゝでゝゝゝし。すゝくかゝのゝゝ。はの字。ふ
ゝゝゝ。ゝゝゝ。所ゝ寿ゝなゝどゝのゝゝ字ゝゝ。

とゝつゝのゝゝるれゝど。ゝゝ。ゝゝ九日ゝゝ。又ゝ千百ゝゝ。
年ある時。ゝゝゝ十日ゝゝゝ。問ゝけゝゝ。所ゝゝ。三條ゝ
屋ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝ問ゝけゝゝゝゝゝゝゝゝ。西面ゝゝの寿ゝゝゝ。はの字ゝ
寿ゝゝゝゝゝゝ。世ゝゝ。問ゝゝゝゝゝゝゝ問ゝ前ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

続　家ゝ皆 杖ゝ白数の 墓ゝのり　芭蕉

けゝゝ。蕉ゝ蕉風ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ。ゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

の二例あり。清むく

猿

秋ぐれやしくれすくふくうごく笠　子尹

名月や別て寺の柴の木ゝ　昌房

やごく死ぬ〻ぬ〻ぬ〻

□　義層とまのさがのかり　永くげり　山解
□　何のあれこの乃れるとて大師講　如行
□　さびしさは秋とそなるけるる　巨燈
□　ものとなりとぐしわく里と森　時ふ　里圃
□　ふづとゆや　酔ふとき　蕉の影ぐし　芭蕉
□　冬川や　わ紫く　黒き　岩の間　惟然
□　牛のゆく乃く　枯野のとぐ　ぬか　樵解
□　鶴鷺　富くとがとぐれ　雪　秋浦
□　花のあとこよりのはとゆぐ　重友
□　山茶花ともとり開くうり　花　東海
冬　三日月の東とくるる　陸のとる　芭蕉
□　秋稗の蘆ふるとくとぐうと　水

□　うあとけくらなとゆる丸　村岡
春　萱草い隠ふ　花の　多　荷兮
□　鳥とめれ牛　村しぐれ　杜岡
□　尋ふる　物とすと　波　芭蕉
炭　ひぐふとくふる軍の大事也　□
□　物とのとくる　蕉とかうき　其角
□　降ふぐと　十どの男の荷をうと　野坡
□　けさびの葉と　秋の蕉　□
□　□のあるとけ　あうとの　孤屋
□　寒く　地別　家く　入　掛軍
□　少はしく　行年で人ふ　□
□　秀の穂とのふ　吹倒き　野坡

荒　すゞれく柳　一炎
同　みゝ〜師　雑色
同　衣ごゝ　路通
同　いるづゝや　芝角
員　さびしさ　泉水
同　一里の炭　一井
同　鳴子　岩竜
同　駒の鬣　野水
甄　医者くさし　笹葉
精　分ハ紙の　土芳

此句前句ハ「夫婦」ヲ主トシテコシラヘ。コノ前句ノ心ヲ引クレバ。身モ赤サヤウニアルベキコトナルガ故ニ。思ヒクヅレバ。身モ赤サヤウニアルベキコトナルガ故ニ。ト引ワケテ。コトワレルナリ

こゝろの例そ。下のけさもも手ふるゝ同じ
のまゝ手おくそ。かりとれ出ぶる所と。別と垂る匂ひ。こゝ
同じ例よ。あゝ花ど。手竟。かりぶ。黒ぶ。ぶる地

荒　たゝくそ。去年の土葉の。ほこり分　宗川
同　ひう葉つむ。あゝく本初刈。畑こる　知人
同　鳴宴ハ菅津のあるひるごと　測支
同　月花のそゞめく。鶏鳴の本ごゝ分　釣雪
同　芝雨を伊勢の点つゞ。ことよるる分　泉水

これゝ。ぶまそ。なる。ぶ。そ。くゝ。ぶで。上のそ。内。西。ぶ。こゝ。ぶる
かり。手のくゝ。ぶで。あるまゝ。ぶ。例。かれど。これゝ。そ。かの。俳諧サ。宗
のゆるゝ。ぶまそ。ぶ。ぶる。上。ぶ。ぶる。ぶ。ぶる。ぶ。ぶる

荒

荒

集　紹鷗羽　芭蕉

日

○毛家

毛

[illegible]

すワざわるごかんし。かの意ッてかること。言のたばこをこんさと
神道とこちごしとうるこのこにくかたの教ひこふこと
まあるこのなるまで。このこのるこいしく我しも意をてしくさかるぬ
こるり。こわごこの所ゆで。所方をいしく。所方い人のんこふこと古
人弾ものこの。弾ものこし。言こ意を殺すごなこ神たごこ
まつごここあびるこれで。むこるこ神の見るわごし。豊
白ものごくサなるまで。いくくこんを無ごこ。魂をくこるこのび
ず。この所方をのいくに所方はここ。天命法のものあるこ
半百こいつごごし。こわこ。あ身一法ぬるりこごりいごさ

てこと上ぬ法ぬここと。ゆこ人のんこまるこ。ここは魂こ
いつごこし。こくこ法ここりいたこくこ。古方法ごいまごいたし。ゆこ
ようこく。つごこあるこいつごこのこあこ。その外こ国ありごここ
こ天命法こつこごこのこここりこにいこくこごこ

猿　合歓の木のなりごこいこ。昼のうげ　芭蕉

こわくこりのこ。合歓こいこの。ふこここ。こ国こつごか
にこく。半ごこ一茶の国こ。陽ここいこつごの国こくこかこ。これごこ
こ昼のここいこくあこ七月こるのここわごこ。こここ陽ここいここるこ。ここく
けこの中ごのんこ。合歓の華ごこを。こここ中ごわごこ。ここく他の
唐ぬ大華ごこるこの華ごこ。ごここ。人のここんここ
こ。こここここれこる也。これこの唐ごこ。こ華こここここ。合歓ここで
こ。ここここりこここあこのこここ。こ国の中こにこくこ所方こ法ここれこる。こここ

の字共西例とそまつぶるも

炭　雲母屋（紙屋ヲ品川ニテ送リテ）　野坡

日　このくれまくの所一日ゞ事　杉風

春　蓮二　枝々ひろまり　うが　蕉人

前句ニ（むさぼり）きめどなくあわく世界と冬文コレラ前句ノ絹ニヨタリテモトイヘルニアラズ蓮ノ数ヲ思ハセタルヨリ。アシクヒエナバ前句ノ絹ニアタレルヤウニオモハルベケレバ弁ヲ不ク

猿　うき月さ鼻つぶあくさ　蹲うるぶ　九兆

炭　鬼のつの絲をすくもひいふ　如行

員　みちもうしこ事紀伊の御祝ひ　胡及

瓢　文珠の智恵も繁特が思恵　蕉人

猿　百姓ともまよう問く常陸奇　素

続　人の乳もかく寒くうの掾　洒落

猿　若楓　茅ぶくもひと盛　曲水

日　男が伴やつるる祭も鍋ひとり　越人

日　ふる仏く猿をを組む秋の風　除茶

続　茨ふる咲ふ　ものし鬼　芭蕉　蕉雀

炭　この時ふ拍板ぶ　ぶ　不鮮

日　まぐこのふ　ふ　ふ　宰人　野坡

猿　衰ふ草庵ノ留守ヲトヒテ　蕉人

日　初しぐれ猿ふ小蓑をかしげ　芭蕉

日　こふふふ　ふ　ふ　俗ふ　ふの浦　猿雖

炭　駿河路や花ふらぐ　ふ　茅屋　芭蕉

春　ふゆく　ふの　金ふ　ふ　野水

荒　蝶の巣のこれふ　蝶の　俗　蝶通

炭　荒　日　日　日　日　日　続　日　荒　續　日

[illegible]　楚舟
[illegible]　胡及
[illegible]　湯水
[illegible]　黄蕉
[illegible]　杏雨
[illegible]　野水
[illegible]　荒雪
[illegible]　正秀
[illegible]　野水
[illegible]　同
[illegible]　豊良
[illegible]　葛

日

炭

[illegible]　世蕉
[illegible]　野坡

○かなめのもとゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

なりと云るべし。つゝみてはけんにくはうぶべもし。等栄寺一奏　雄

暑高の汗襲を一かさねとみるもよし。みうるもらし。みづからよみみづからもらさ

とゝみを汗。このうるもし。孤の　葉をとる　道具　落るいろのあはれく。

この句にて。此女の容儀のいとすぐれたるをおぼすべかりと。活の

しくのうるはしめし。西西とのいとしあのはなをと。ひとつを西西で

とゝひとつうみく。天の波のしるしるを兼ねあのひがごとく

猿　題　蓮柿舍

蓮柿る　加　木部を　名所ぶ　凡兆

られてひとつく西西なる　まこれば。これにく味噌部を雪隠も。

花雲をうるの花をそ千る者とも。

徒　むかしまつく栗も拾ひしの茅　沾圓

員　くゝ柿ましまくゝ柿も苦渋　傘下

猿　かうぐんは　サニヲカヘシ　柿ひとりやちゝ柿　羽紅

○　月　乾鮭と空也の痩も寒のうち　芭蕉

徒　ちひうめ。筆と口きいく　月

○　柚と柿とをとりわけ御影講　沾圓

荒　名月や海もなきごとく山もみず　吉来

ちゝいつまで言外に西のことをとゝのくみるべし

炭　年の豆　密　椎の拾ひ　茨ちりく　晋子

この句かぐく。なくこゝる晋子が句なれば。すこしゆるくいこと

とるれば。この年の豆とゝみ豆　豆　密　西西こゝゆる白豆なれば。

こゝこれを寄こぐくいつけて。年の豆もみりんの拾ひとゝ

いく。西西と他のあらぐの茅ちりこゝとをいこゝること

こゝもし。こうぐくの言とく。上るもおれの字あるべのしばこゝ

ようこゝこうくこのくこゝ　桃月　ぐふ　年ぐく。これとこゝで

[illegible]

貝　高さ五寸ばかりもあるべし　野水

○上の前のとおなじ。[illegible]

炭　牡丹すくなくの花　撫　[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○又[illegible]

○又[illegible]

伊達ノ五十音ノ伊　[illegible]

○　仁家

にはとこ　今はなのようなる物とうのうちのものに持あくさくらの
詞なり　うこぎ　荷とうすの樽なる人の荷をうちのみくぬ
而の荷とさきとりあくやさる桶のごとし　このんぼく荷とうるづ
くなり　うしおうくさきりうるぐし　位ようり上の何ぐうちの而
なり　下さめるこの而なりとんぐづ

続　味くしやさくの花に物ぐそ　車来

貝のうこんかくしあさくの花に　貝のうこんかくる物ぐづとうらあくやく
うう味くしとなりくうる物こ　この貝前うちつくるぐみ高
なりぐづ　貝前くうとする而しうちくく宮くうる而こ　ゆる
みくあさ　さくしのくうるづにいなり　うくうるあくんくるぐ
べき物なり

炭　さくしのくうるあくうるあ　崔　蝶　利年

これ　蝶　崔　とさに眼前のあるなり　崔をさくく　蝶と
うちくなりくうるなりなり

炭　約束ようみくのぐく伝うる也　蛍良
続　縁故のくしの花にあくうるく　曲翠
春　初ゆめの芳葉のくうに初祀なて　荷弓
炭　うりく物えくうたくねの月　其角
続　味曽郭ちりの花ち三葉ル　メ可
月　掘栗や　縁ようやくぐうの雪り　沾圃
荒　うるくうや　腑の傷くうくくの雪　芭蕉
冬　雑ようりく烏帽子の女　五三十　野水
員　大根ちぐみくぼすく　いてづ　荷弓
続　番のくうく小路うづくすうき　沾圃

員　里浦く踊をつて二三日　芝虹
日　ついたばくりて落る精進　望水
日　秋風よ女車の髪男　徳川
猿　藤の芽ときりて切ゆり子　芭蕉
日　竹かるや畑隣に思大原　玄来
員　人並よりやぶ抜く花ゆく　鈍雪
弦　枇杷の古葉に木芽ときれ　史邦
日　初雪に磨砂のごく切ばけ　日
炭　牧しさる靴を瓦ときくぐ　野坡
徒　大キナ蛙のドンと鳴ゆる　惟然
炭　隣の小言やれて天鵞絨　野坡
反　高くなるれ雪ま一文に　野水

集　持ゲてむしの一字ありしと　芭蕉
炭　下はきなりと雑炊雲猶　弧屋
日　おりばや出て冊抜ぬ江の月　里朱
獣　寝て行くとけど皆帰　留房
冬　銀と酔むしなる海　芭蕉
炭　酔くに西国武士の前のごと　弧屋
日　抜竹の実と沓ち　杉風
徒　猫ちくり和に抜刀赤梅　良品
炭　傘と行ちかる柳ふ　芭蕉
徒　ちれ瓜やそこ口ぐふ抜ると　支考
荒　ちぐりすの色ちぐる酒中小　市柳
に　かぐり米ちでくる梅ちれ　一晶

曰　はつ瀬や　阿部くさかりに花の雲　珠人

曰　いざのぼれ（スミダ川ニテ）　隅田川の鮎くらべ　都雀　夜室

続　淀荻下（イセニテ）　舟をゆるやく年の暮　呂丸

荒　送別　ふるの馬　よみくゆくふ島かな　傘下

続　小原見に舟を扱うるささぶ　斜岳

荒　ゆ力や　扶ふ水ゆる角田川　坡く

曰　船ちくや　白菊ようづく庵木壺　魏河

続　ひるゆくゆく浦の　笠屋かな　馬莧

曰　山ぐくのどくくくくくくくの　稲　八洲

に　さくく淀や　なくくくの本作ふ　神ら　芳長

曰　作りよりに河原　鵜　まる小菜畠　文考

作者とく。作者つづくとデとふるまし。デとそて

うるてあるかるふあるあり。うるて。作者ひとり知ふ

かる也。かれあるて。作るくくくくくくくくくの所なげくくあるや

ともるべし。されども上句の所のをもとびにうるりぐんくしだ。

作者ようるかあるとせどひくかり。作者かるとふくくよ。こ

くくで。甚所でめくくくくくくくくく

この句、本當に良材を求られだ。富士つくばは自然と
とおりの中に、燕も、そこにくる。土をつくするとは新しくいつる
かり。木をもつくするとくるくる自然とくるる。土をもつくする
といふなれど、こかくくと書たくくくなどいとづくあるり。この句
意をとるべく。伝をくくデとのもちくる。古くくは口りれあるのをもれ
くるるとをくべし

荒　つりがねを扇ぐやうくに冬の雪　冬杭
続　蕎麦をまぐ花ぐ見ても路ぶ　芭蕉
炭　またとくくに江戸でんくなる　梨半
日　馬よ出ぬ日ゆぐ恋する　芭蕉
日　ゆぐより茅ぐ花の陰　梨半
日　ちめぐの中ぐより出る海鼠赤　日

日　いくはずぐこいる逢坂　野坡
続　やるくぐ橋ぐくらとぐ　凡兆
炭　折るるくくでやや墨所　野坡
続　八九間ぐ雨つる柳　芭蕉
炭　ものが歌のあぐくる門屋ふ　野坡
日　蕎ぐすげる下駄のおもる花　日
続　屋敷ぐつきくくのくくなん　芭蕉
日　ものぬ合ぐこづくくくる　沾圃
炭　ふる裸歌くくくくぐ雪茶　梨半
続　まぐ立て河くる鹿降　文考
炭　買こんぶ米ぐ新俳くまくく　梨半
日　又くる佛の食ぐ坊と用　日

同　　戸でかくみ一居風呂のやね　野坡
同　　ひろつて今ぐ教ぐへする　日
続　　うるまぐ市一の中を押あ　芭蕉
同　　おりひれまくく早稲ぐや初ぐ　里圃

但デとりひくこの俗言のデの例とあぐるあり。これもいまとをまぐ
あ事なれども。たくぐ

炭　　これたぐ縁組まんで里うとう　嘉角
続　　ちう結あらりもろに續ぐみる　野坡
同　　結ばまんで孝一ぬまする　法圃
炭　　ひうとめまんでくみも稲くうる　野牛

コレラハイヴレモ。清音ノテナルガ。濁ルハ俗言ノナラトニテ。スヨデトイフトハコトナリ。古言ナラハ「すうて」
「つぐく」めすみくトイフ所ナリ。ニガハスベヤラズ

続　　尭のうあれあるうさうで四十雀　芭蕉
続　　袋あや三ぐくよぐ寸　羽紅
同　　ものかけくとでるりもうげか　板風
荒　　梭櫛の塔うさまでるる胡蝶か　梅餅
同　　うぐくくとみうぐ畑りりみすか　玄朱

ニレラハすてトイフベキヲデトイフニテ。古言ニモデトウカラコナリ。コレハコヽニ出スベキコトニハアラヲトナホ下ノ不倫ニ出セルヲ見テコヽロウベシ

ぐれうぐまぐすべうぐ。さくまぐ古言ぐくとうぐくとうるく。俗言のデれんかうる例ぐさうにあぐ

荒　　さり雪やうり茅屋にく隣で　路通
続　　このむしやつのうりにく涅槃像　野水
員　　むうまぐ宮ぐのかあにく　荷兮

[illegible]句「[illegible]」は土のくつのかり 兎糸コノ句意ヲ見テ、コノ句ハ、デノ心ヲルヿ知ルベシ

炭　髪おくとこそ雪踏とこそする　宗長

日　帷子肩ようらん　日

荒　肩衣そ[illegible]ゆるせ元の反　杉風

日　うゝ寄の松を花より折りわびく　芭蕉

集　うまれぬるとよのはつしもにくすめ　日

古いづれとデとうつべかな　古今めづらしくにくけうれうる

○又上ニ「何ものとひとつ」と「何する何と」と例ヲ引キ

事あり。すべてこれらはみな例句の法なり。上の事より方ハ無其事。

下のすべてつく義をとるべし。されど句のつゞくにいでゝ「何と何

するとつゞくものゝ法ハ例ヲ引キ[illegible]

冬　そ中の年あく拾ひのゝざる　正月　杜国

日　血刀うつ沢　月のくら雲　荷兮

春　傘のうらを結キ[illegible]なる　雨の雲　素龍

員　そ川雪やそこのびるる　相のまに　野水

日　[illegible]中そもきこめこの里　岳稚

日　[illegible]の手魚ろる　渭雄　日

これら皆例句の法なり。又これ[illegible]ありぬ

猿　新年　数なくしるる　月うげ　野水

これ例句なるべし。上と二事なるべ[illegible]

[illegible]句にはずと定むるなり。前句「[illegible]」雪降する

秋芭蕉　後句「[illegible]」十の童　素堂　この前句ほ[illegible]

[illegible]ようあひすることなし。例句なるべ[illegible]

○[illegible]ニ[illegible]ニあるべ[illegible]

是非ともくるしめ異ものあるべし。いとでもとるべきなり

続　さようさとり庚申ーうちの亦屋形。　丈草

○まさにとりとく。ジヤニ　ジヤノニ　ノニなどの伝語ようすもあり。

これも前のうつ所のおもかたづつるし。半ば上下の書ぶりより

て。かくはものるさとかるし。

飄　この村入りうかく醫者のかりくり　荷子

日　色ばこころよ　用うるへ出きき　乙州

日　なるとやめにおつる　釣柳　坂人

集　木曽の痩せまぶ歩まめ　陸の月　芭蕉

○うのみ引　みて　にくなど。うもくの天ぶ波を縫くうる

事つるこ。これくるの傳ことうるやくつくれ。ぶるぶ

続　なれも嫁てきかくぶ内徒　活風

日　うぐひすの跡ふる雪をうぐひす　馬莫

炭　はるし跡ふる丸太うぐひす　孤屋

集　景清も花見の所ふる七兵衛　芭蕉

続　る出るるるげ悲鳴や花びらき　菖蒲

荒　むさしつるや　ふく所ふるみる射角　永鼎

猿　なるふるるるも雪ぎりや　師水

荒　月ふるのふるも土ー門の松　素堂

日　なるふるるるるも俳三ヶの月　芭蕉

猿　初鰹や骨なるふるも桜の色　半殺

日　ふるるつるなるふるる似ぐる木槿ふ　完蘭

続　ふるる色ふるるもしもるふるるぶ侍ふる　今日庵

集　すぐしふるるぶ百ぶくねまるや　芭蕉

○又ハ[illegible]ト[illegible]ト[illegible]ト

員　いのゝゆくゝと。羽織ら葛　堅水
徒　酒壺もひゝぐと。紐のもろ小　素来
冬　口をゝと。墨テ癖をらぶる　力なく　堅水
徒　人なき無やゝむゝあゝ移ぐゝ　と雷義
員　かくすものみやゝと。んへのやらゝ　武人
徒　つゝしきけと。けゆるるゝの蔭の苔　基角
は　あゝゝゝやゝ門ゝ乃竜　芭蕉
は　ひゝゝゝ固麻とあゝ幽ゝ臨とかゝゝ。墨よへあぐ　幻住
は　おゝつ事一紙帳ようけと。やゝゝ　堅住
ゝゝは刷なり。上にいぐゝく。なゝの詞ゝゝゝぐゝゝ。ゝゝゝぐゝれど。
はゝやゝゝ移ゝゝゝる。沒屬のゝく。まゝゝゝゝゝ。月日ゝゝるぐゝ
やゝと又沒いかゝゝ事ゝかゝ。ゝれゝゝあの天安波ゝゝ同ゝゝゝん

えゝくはゝゝぐゝなり。ゝのん。むゝゝゝゝゝ

続　金鈴とんよりうつる　雨のやすき　芭蕉

日　お留守するれば　廣き　板敷　凡兆

炭　よしの内　でらくらもし月の雲　芭蕉

まこの例のごとく、行ふの例なるあり。

続　ゆりとゆ出す　京の道づれ　馬莧

これ、ゆりとゆとつたく。ドウヤラチャウヤ　ゆとゆ字とつでハくるい

ラトイフ心。

ゆ字ずふ字ずうゆ。

○又、ゆと誠くゆ例あり。これを上るゆ　やをうくるれかゆ

くるれこのゆをいでず。このやゆ　ゆのゆ　ゆゆ誠ゆ

なるし。ゆまゆゆゆゆの　ゆゆゆゆゆゆゆ誠ゆ

ゆゆゆゆゆゆゆ

[illegible]

○[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

続　くさ〳〵のさま〳〵の青雲　世蓮
員　つゝく〳〵時日の帝は塩つるぐ　荷弓
炭　ぐんぐ〳〵もみち葉る秋の夕　宮枝
日　さんとのぞけば酒の宮中　柳平
日　どくりわく塩のこゝろ秋月　弱冠
猿　芙蓉のむかしのこゝろと菊　吏部
荒　すぐくと話をつくりつくぐし　東泉
日　すぐくとつゆやつゝもやや土葉　長角
日　まぐくと楽めるのをくりつくぐし　葉生
こゝろづまもとつくつづくし
○第三例　ともよやを上云
ゆるゝ人。大と徒らどゝとのすゝ。よをつゝら

荒　山ぐくと蝶のこゝろれぬあゝ　上枝
日　若月や　敷のあゝと　大の夜　土水
日　馬〳〵馬ぐゝあひくり詩ゝ　鈍可
続　灌佛やゝ秋迦と拝蜜と法華日士　ゝゝ
荒　花ゝとこゝ葉あるをのくゝれ　夕文
日　こぐ〳〵の馬喪極の木の葉ゝつまゝく　東東
猿　川上とこゝの川下や月ゝ皮　世蓮
続　まゝも面ゝくゝくゝの月ゝ稀　日
炭　伐遠寸桃ゝ稀のまれあひく　弼冠
仕例ゝ。仕例ゝ仕ゝをゝりよゝひゝる白ゝり
続　あゝくゝゝふゝこゝおゝゝくり芭蕉の花　智月

それぞれ　まるまる　雨しぐれと　里東

但コノ句ハ、天ノ句トハ云ガタシテ、雨ならひこぐれ云ハ
イフ心ナルベケレバ、甘一例ノ中ニ入サマ名ナリ　マガ
ハスベ
カラズ

このごろうつろふものの香ちよいつづくく。片寄ものの
すむくるびのかりんに。ふるかうつ。おこのあるよこそれと
なのつけくくん事あること。時雨物ようつづくく。
ものとつくりこつくあること。片寄が主片寄がそこにあるあり。
何こに何こまりこうの時こふるこくこ寒こなりて別こ主
あることとこるべし。即ちこの「あることにかるこる白こ有こもの」
見のうちこるこる意ふるこるあり　コノ句ノ前ニ芭蕉ガ「すぐ
トイフ句アリテ。フレノ句書ニ真如堂ニ行く芭蕉寺弁慶の腰掛の時
トアレバ。コレモソノ時ノ句ナレバカリハイフチリ。又ハ真如堂ニ芭蕉寺
トテ堂アレバ、ソノ俳トニ体ナルコトヲイフニヤトモカボ手し。カラバ
イヅレカマコトナラントノ心ヲ思ハセ名ルベシテ。フタツノ中ヒトツヲ名ナリ

○第四例　にぐるとトこ

雑とい言葉のこころや。こしまこと。雑こ言葉こ。つるぐこ言こ
ものとおもひつけこやんこあるれど。本茶こ向ど

集　月こあれど留守のやうや酒屋の家　芭蕉

蒸　ちこ月やかこもこるこれど　蕪村

日　むこ野こ月こ出るこの口あり　阮思

日　勝手こ月こ出るこむこ　極車

歩　これこ月こ出るこ時の名　四校

日　ちここに月こ長ここまこみ　日

日　坊ここまこるまこ　やこり　仁平次　刑平

日　こちこもいれどこ白こ　四校

○第五例　つるかこトこ

[illegible]

アロトで、ヨカラズ。集中一例みえ侯

○第六例　ぶりるやー　ー

[illegible]

事のいくらびも引つゝゆくらし。集中一例す

[illegible]の六例のあり。俗語につゝみと二種あり

続　かなしかりとて唐めしゆく秋のうぞ　支考

日　鶏があげくとやぶく暑の月　芭蕉

何かしらいさめなくすんとて、鶏があげくとつゝ手

竟あげわぐとつゝかとして。これらも古のてにはつゝあるべし

○[illegible]天の原波とり[illegible]登伊の友知るんで

萬葉[illegible]。[illegible]ゆくこゝまり。[illegible]

[illegible]ど。[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

人のいとゝるなどは。[illegible]

[illegible]。[illegible]

定家卿の[illegible]と　萬葉二八[illegible]

世なげくりつゝあるめる也。集中一例[illegible]

○引[illegible]上の第五例[illegible]

集　[illegible]竹植るゆく蓑と笠　芭蕉

日　紙衣めるるもしをしん雨の名　日

荒　[illegible]本賊をみるの[illegible]　文鱗

[illegible]例れてそして萩の家　雪良

[illegible]五月よりつづく[illegible]

[illegible]

[illegible]

炭

集

[illegible]

[illegible]

[illegible]